

今日小づつみがきました。みんな先生に来たのを喜びました。五つまでおこりしてました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。

東京都世田谷区北沢三三四
石川正雄様
八月二十日
浅草温泉 葛湯内五五班
石川晴児

はがき (史料8)
父正雄に宛てたもの。届いた小包について述べている。昭和19年(1944)8月22日。

元子 御田様へ
お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。

長野縣東筑摩郡本郷村
浅草温泉 葛湯内五五班
石川靖児様
東京都世田谷区北沢三三四
石川晴子
八月二十日

はがき (史料9)
差出人は姉晴子であるが、父母、兄、姉、その他の人から疎開先の靖児を励ます寄せ書きである。昭和19年(1944)8月22日。

朝晩涼しくなりました。そちらは寒いのせうね。元氣のこと、思ひます。この間母の會を代表してお菓子を持て行きました。叔父様方の報告會が學校でありまして、お話を伺ってまいりました。昨日は葛湯の湯の子供のお母様たちがお家へお集り下りまして、大變賑やかでした。そちらは、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、おばあさん、おじいさん、みんな読んでました。

長野縣東筑摩郡本郷村
浅草温泉 葛湯内五五班
石川靖児 様
東京都世田谷区北沢三三四
石川節子
九月十二日

はがき (史料13)
母節子よりのはがき。疎開先生活を実見した父兄による報告會が開かれたことが述べられている。昭和19年(1944)9月12日。

学童集団疎開児童の往復書簡——石川靖児氏手紙

昭和館学芸部

本史料について

今回紹介する史料は、石川靖児氏（以下敬称略）より平成十年（一九九八）十月に当館（当時戦没者追悼平和祈念館〈仮称〉設立準備室）へ寄贈されたものである。石川は東京都世田谷区代沢国民学校四年生であつた昭和十九年（一九四四）八月から翌二十年九月の間、長野県本郷村（現・松本市）浅間温泉及び長野県東筑摩郡洗馬村（現・塩尻市）で学童疎開生活を送つた。

寄贈史料は学童集団疎開中に両親らと取り交わした書簡類を中心に、日記、疎開先より東京の親に宛てて発行されたガリ版刷り新聞（『つたの湯新聞』）などである。史料群の中心を占める書簡類については、石川が受け取つたものを手元に残しておいたもの他、疎開から帰京後しばらくたつてから、母が保管していた自分が差し出した書簡を受け取つたものも合わされており、書簡の往復が成立する部分が多くみられる。これは、当館所蔵の学童疎開関係のみならず、膨大な書簡類収集史料の中でも非常に珍しい例であり、特記に値する。

これらの史料については、これまで常設展示室及び特別企画展で一部を展示してきたが、本稿では史料群の中から、主に家族との間で交わされたはがきを翻刻し紹介を行う。掲載にあたっては館内の資料番号と別に消印等より日付順に整理を行い、本稿では日付順に収録をした（巻末リストに併記）。

翻刻に先立ち疎開生活の概略を簡単に記述するが、石川よりの聞き取りの他、『学童集団疎開の記録 浮雲教室』¹より多くを参照した。同書は当時代沢国民学校教諭であつた濱館菊雄が著したもので、濱館は学童疎開先では石川の宿舍の受け持ちであり、児童とは違った立場からの記述と本史料を照合することにより、より具体的な生活の様子を知ることができた。実際書簡中にも度々登場している。（史料2、31）²なお、同著によれば「通信は総て学寮長の検閲を受けて投函すること」²となっており、国民学校四、五年生であつた石川にとつても、教師が自らの書簡を目にすることを想定し、疎開生活のありのままを記述するのはためらつていたことに留意して本稿を読み進める必要がある。一例を挙げれば、お腹が空いたなど食べるものに関することは書くなど指示をされていたそう³で、実際石川より発簡した文面には、食物についての記述をほとんど見

ることができない。

学童集団疎開とは

学童疎開とは、昭和十九年（二九四四）、米軍による日本本土への本格的な空襲に備え、大都市の国民学校初等科（現在の小学校）の学童を、より安全な地域に一時移住させたことをいう。学童疎開の目的は、空襲から若い生命を護り、次代の戦力を育てること、足手まといをなくして防空態勢を強化することとされ、縁故疎開・集団疎開とも強力な勸奨のもとに慌しく実施された。学童疎開に至るまでの経緯を年代別に簡単に記する。

昭和十八年（一九四三）

九月二十一日 「現情勢下ニ於ケル国勢運営要綱」 閣議決定。人員の地方分散疎開計画が盛り込まれる。

十二月十日 文部省、学童の縁故疎開促進を発表。

十二月二十一日 「都市疎開実施要綱」 閣議決定。東京都区部、川崎・横浜・名古屋・大阪・尼崎・神戸・門司・小倉・戸畑・若松・八幡の一二都市で建物・人員の疎開実施が決定。

昭和十九年（一九四四）

三月三日 「一般疎開促進要綱」 閣議決定。学童などの縁故疎開促進の原則が出される。

四月五日 東京都が縁故のない学童のため、戦時疎開学園を設置と発表。

六月三十日 「学童疎開促進要綱」を閣議決定。縁故疎開が困難な、

国民学校初等科三〜六年生の集団疎開実施が決定。

七月七日 「帝都学童集団疎開実施要領」発表。差し当たり関東地方とその近接県の旅館や寺院などに疎開すること、保護者は児童の生活費の一部として月十円を負担すること（それ以外は都が負担）などが定められた。

八月四日 学童集団疎開開始。

昭和十九年六月に「学童疎開促進要綱」が決定され、これにより縁故疎開を原則としつつ、それが不可能な国民学校初等科三〜六年年の児童を集団疎開させた。十九年には東京・横浜・川崎・横須賀・大阪・神戸・尼崎・名古屋・門司・小倉・戸畑・若松・八幡の一二都市が指定され、学校ごとに近郊農村地帯への移動が始まり、翌二十年四月には京都・舞鶴・広島・呉の四都市が追加指定され、全国で約四〇万人を超える児童が疎開したといわれる。疎開児童は疎開先の学校や寺院、寮などを分教場として学んだが、粗末な食事や慣れない農作業などで辛い日々を送った者も多かった。

家族構成

石川家は世田谷区北沢二―二四四（現在の代沢二丁目）に父正雄、母節子、長女晴子、長男玲児、次男靖児の五人家族で住んでいた。正雄は石川啄木の娘婿にあたり、啄木関連の研究、書籍の出版・発行を行うなど著述を生業にしていたが、靖児の疎開中の十九年十月頃徴用を受け、足立区の軍需工場、南千住製作所親和寮の寮長（舎監）として住み込みで勤務することとなった（史料19、20）。晴子は女学校を卒業後の二十年

七月に岩手の親戚を頼って縁故疎開し、八月より岩手郡御所村の海軍病院の理事生として勤務した（史料45〜47）。玲児は中学校卒業後の十九年九月に所沢陸軍少年飛行兵学校に入校したが（史料17）、後に陸軍航空整備兵学校に転じたようである（史料19）、教育中に終戦を迎えた。昭和九年生まれの靖児は、小学校が国民学校と変わった十六年四月に自宅より歩いて五分ほどの代沢国民学校に入学し、十九年八月より学童集団疎開に参加した。このように靖児の学童疎開出発後、家族が相次いで家を離れ終戦時には節子一人で家を守っていた（靖児はこの様子を「一家離散」と語った）。幸い戦災にも遭わず、終戦後それぞれが復帰することができた。

疎開地への足取り

石川は世田谷区代沢国民学校四年生であった昭和十九年八月に東京を出発して、学童集団疎開先である長野県東筑摩郡本郷村浅間温泉に向かった。ここでは温泉旅館の蔦の湯を宿舎としていた。翌二十年四月に再疎開で長野県東筑摩郡東筑摩郡洗馬村（現・塩尻市）へ移動し、眞正寺を宿舎とした。

八月十二日夜、家で夕食を済ませてから学校へ集合し、九時壮行式、十時に出発した。全校で四五五人の児童が整列して小田急線下北沢駅まで行き、石川は見送りに来た両親と姉とここで別れた。新宿駅で中央線十一時五十分発夜行の疎開特別列車へ乗り換えた。よく寝られなかったが、うとうととして目が覚めたら車窓から諏訪湖が見えた。翌朝九時半に松本駅へ到着し、松本電鉄に乗り換えたが、小さな車両であったので分散して乗った。浅間駅に到着後、地元の本郷国民学校校庭で受入式が行われ、神社参拝の後によくやく宿舎に落ち着くことができた。荷物は

リュックサックに身の回りの物を詰めた程度だった。行李と布団は先送りしたので、宿舎へ到着したら先に届いており、荷ほどきを終えてその晩から自分の布団で寝ることができた。

宿舎は六軒の旅館に分散した。学年は関係なく、住所ごとに宿舎が割り当てられた。これは児童たちが空襲対策として、隣組を単位に集団登校していたのでこれをそのまま割り当ての単位としたものであった。父親が縁故疎開にするか迷いぎりぎりになって集団疎開へ決めたことから、石川の宿舎「蔦の湯」はこの割り当てから外れ、近所の仲間はいなかった。

昭和十九年八月からの学童集団疎開実施の通達もたらされたのは七月十七日のことであった。しかも、それぞれの父兄に対して集団疎開に参加するかしないかの回答期限は、疎開の行き先も決まっていなかった。十九日までとされ、相当な混乱が生じたものと思われる。それでも同校の三年生以上在籍八百名の児童のうち、七割に達する五百名を超えた疎開参加希望者があった。その後も参加の取り消しや、新たな希望により最終決定者は四五五名となった。おそらく石川の父親は、この締め切り日を過ぎてから参加を決定したものと思われる。疎開先は長野県本郷村浅間温泉に決まり、二十九日校長と教頭が実施視察へ出発した。八月一日職員参加者の発表があり、教頭以下一〇名が集団疎開学童付添として任命、濱館もこの中に含まれ、石川の宿舎である「蔦の湯」の二七名の児童を受け持つことになり、その中には濱館の六年生の長男と三年生の長女も含まれていた。

史料1〜8では、到着の様子や必要な品を小包でやり取りしている様子が窺える。

疎開先での生活

到着以来、落ち着くまで日課も定められず一〇日を過ごしたが、八月二十三日からは定められた日課に従つての生活に入った。

一日の日課は午前六時に起床、合図はラッパであった。一斉に起きた児童は布団をたたみ、洗顔を済ませた上で六時四十五分からの朝礼に臨んだ。朝礼は五百メートルほど離れた野球場で全員が整列して行われ、宮城遙拝、東京の両親への挨拶の後に教諭と子供たちの挨拶が交わされた。引き続き体操が行われ、宿舎にもどってから朝食であった。八時半から男女学年別に各宿舎の続き部屋を開放しての座学であった。そのため、石川は寝泊まりしている蔦の湯から別の宿舎に授業を受けに行った。午後二時には放課になり、五時の夕食までは自由時間だった。夕食後は六時から一時間自習、それから入浴を済ませ八時就寝であった。新学期の九月からは松本の田町国民学校へ一日おきに通い、その他の日は従来通りの座学を受けた。近くの本郷国民学校（受入式を行った学校）は既に生徒が使用しており、三キロほど歩いての通学であったが、教室を間借りしただけで授業は代沢国民学校の教師が行った（史料14、16）。宿舎は学寮と称され、三〇人に一人の教師と、一五人に一人の寮母と三〇人に一人の作業員によって運営され、これを学寮主任が統括するという組織になっていた。

面会

家族の面会についても、ホームシックを避けるために当初より打ち出された方針で開始より二ヶ月間禁止であった。書簡には九月上旬に「母

の会を代表してお菓子を持って行つて下さった叔父様方の報告会が学校でありましてお話を伺つてまゐりました」（史料13）とあるが、禁止期間中であり正式な面会で出かけたものではない。更に「面会は十月十三日からゆるされるさうです」（史料16）とあり、到着からきつちり二ヶ月で禁止解除となっている様子が窺える。実際に面会が解禁になってからも、月に二度の面会は三〇人に一人位の割合で、希望する父母の調整は「面会のくじ引が関さんにあたり」（史料19）とある。同級生の親には、我が子に渡すよう衣類や学用品が託された。実際に靖児の母が浅間温泉を訪れたのは十月二十五日になってからであった。（史料23）

久しぶりに会う我が子に食べ物を与えたいと思うのは親として当然の心情であるが、児童本人に与えることは禁止され、全児童または班の全員で分け与えるのが建前であった。⁴このことから面会時に限らず「家庭からの郵便小包を子供の前で教師が開くという嫌な規定もつくられた」という。「中山さんからいただいた、飴は少しねずみにたべられて男がたべられないのがざんねんでした」（史料25）とあるように、実際に学童に分配された様子もあるが、石川によれば、終戦後帰京して母と話す疎開地へ託したはずの食料と実際に分配されたものとの間にかなりの隔たりがあったという。

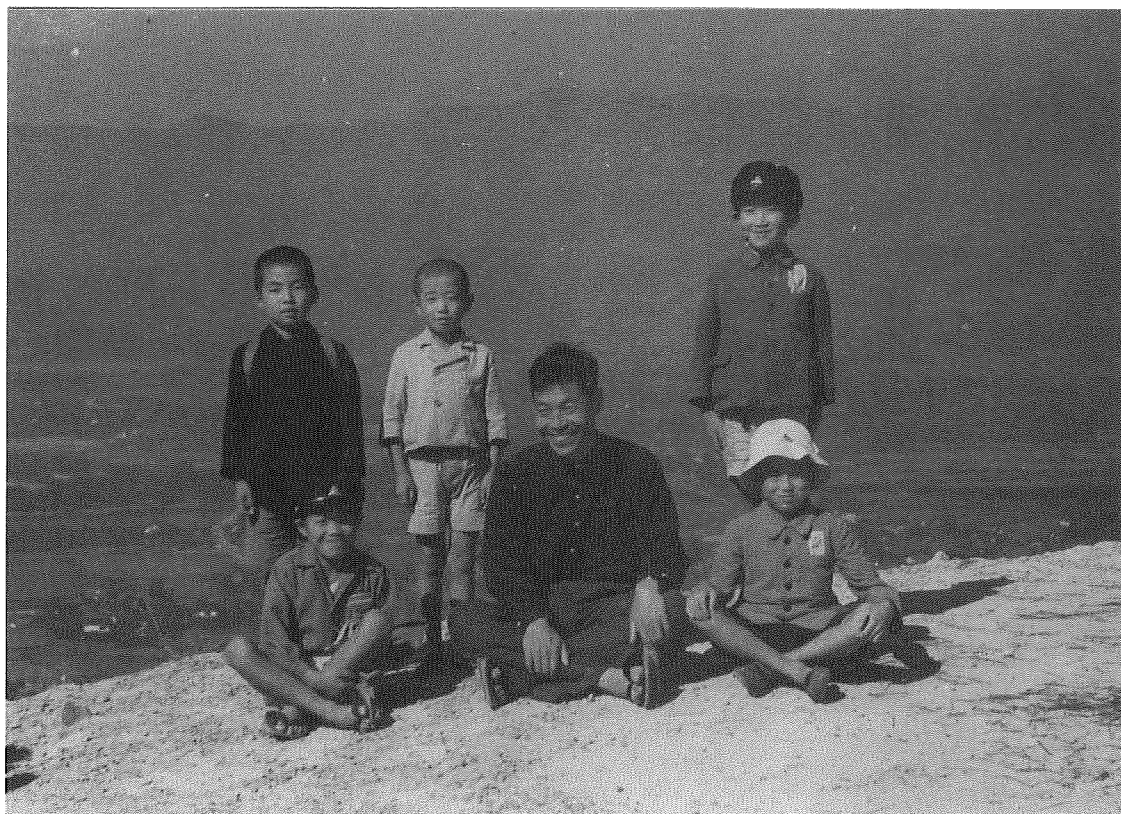
その後「お母さんはいつ浅間へ行けるか未だ分りません。切符が簡短に手に入りませんから」（史料37）とあるように、戦時下の交通困難な状況においては面会も困難になっていったようである。疎開期間中母との面会は先の一回限りであった。



宿舎「蔦の湯」玄関前での集合写真。
疎開学童、引率の教諭、寮母、「蔦の湯」の家族。同級生の父に写真屋があり、疎開先の生活を写して東京の家族に披露した。二列目左より2人目が石川。昭和19年(1944)8月。



疎開先での授業風景
男女学年別に、宿舎の続き部屋を開放して授業が行われた。「桐の湯」と思われる。
昭和19年(1944)9月



浅間温泉の丘の上で
宿舎にこもりきりになりがちであったので、教諭に引率されたたびたび宿舎の周りに散歩へ出た。この丘に登ると
天気の良い日は北アルプスが望まれた。前列右端が石川。中央は「葛の湯」受け持ちの濱館菊雄教諭。
昭和19年(1944)9月



宿舎近くの女鳥羽川にて
散歩の際に、河原で水遊びをすることもあった。
昭和19年(1944)9月

食糧事情

児童疎開体験を語る上で必ず出る話題が、食糧不足による飢えであろう。石川の記憶によれば疎開の最初の頃は割とともであったが、後の二十年四月に再疎開してからは食糧事情はかなり悪くなっていたという。ご飯は玄米様の黒みがかつたものにイモが半分混ぜられたものだった。おやつも煎った大豆が湯呑みに半分ほどだったので、一度に食べず一粒一粒かみしめて味わった。通学の帰りに自生の桑の実を取って食べたり、時には畑に植えているさつまいもを盗み、夜になって布団の中で隠れて生のまま食べたこともあったという。援農で田植え作業に出た時（史料44）には昼食に「銀しゃり」が振る舞われたが、あまりのうれしさに腹一杯食べて、皆お腹をこわしたこともあった。

戦時下の配給統制により食糧事情は極度に悪化し、疎開を引率する学校や行政側の苦労も並大抵ではなかったと想像する。児童たちの健康の問題は食糧不足だけではなく、精神的な原因も多くあり、体重減少というかたちで表れた。「疎開以来一ヶ月半は例外なく減少していたが、十月に入ってからやっと、疎開当時の体重に復することが出来た子供は約半分であった」⁶が、石川は十一月になり「体重はやつと来た時と同じになつて二十三になりました」（史料25）との状況だった。当時の体重は、石川の孫である小学校三年生の女兒よりも少なかったという。母が靖児の健康状態を気遣い事細かな気配りは、書簡中随所に見いだされる。

再疎開

都市からの工場移転により、松本付近は新しい工業地帯へと変わりつ

つあった。松本に近い浅間温泉の学寮も安住の地ではなくなり、二十年三月下旬に再疎開が決定した。代沢国民学校の四百人の行き先は学校で探し出さなければならず、これまでと違って分散することもやむを得なかった。教員による困難な実踏調査により塩尻町、宗賀村、洗馬村、広丘村、（以上、現塩尻市）朝日村（現朝日村）の五町村の寺院に分散疎開することになった。石川は「四月五日ごろしほじりの方の村へさい疎開するさうです」（史料39）と母に書き送っているが、実際は四月十日になって出発した。新たな宿舎は眞正寺に決まり、引率の教諭は浅間温泉と同じく浜館であるが、収容人数がやや増え四十人ほどになった。学校は二キロほど離れた洗馬国民学校、代沢国民学校児童のうち一二〇名が受け入れられた。ここでは洗馬国民学校の児童として毎日登校することになった。石川は「五年の中組で男女組」（史料41）に入った。これまで男女別々で授業を受けてきた石川にとって男女が一緒の教室に入ることは恥ずかしいことであり、授業が始まるのに男子が廊下に固まって教室に入ろうとしないので、教師より黒板消しで叩かれたこともあった。やがて慣れてゆくと、地元の女子児童から寒餅を分けてもらえることもあり、宿舎に持ち帰って分けて食べたという。

再疎開してからは、目に見えて手紙のやり取りの回数が減った。

終戦・帰京

昭和二十年八月十五日、部落長の家のラジオで終戦の「玉音放送」を聞いた。雑音が多く何を言っているのか分からなかったが、放送の後で濱館より戦争が終わったことが児童に知らされた。放送の内容が判然としなかったのは濱館も同様で、「正午緊張の裡に放送は開始された。然し

機械の調節が悪くて、天皇陛下の御声は余りはつきりせず内容もほとんど理解出来なかった。直ぐ続けて行われた解説放送で、私たちは敗戦の事実を確認したのであった⁽⁸⁾。この解説放送の中で集団疎開は翌年三月まで継続という報道が付け加えられていたが、都市の食糧事情その他で見通しの立たないことだった。母からの書簡は終戦当時の様子を細かに知らせている(史料47)。集団疎開終了の通知が届いたのは九月末で、「僕は、今度十一月一日に帰る事になりました」と、本史料中最後の日付となる書簡で書き送っている(史料53)。

十一月一日の夜行で疎開地を後にし、一五ヶ月に及ぶ疎開生活を終えた。

おわりに

親と離れた心細さ、厳しい冬の寒さ、害虫、児童同士の力関係など本稿では触れていない箇所もあり疎開生活全般を語るには中途半端になつてしまった感は否めない。しかし現在の小学校四年生から五年生という幼い時期に親元を離れて生活を送った児童にとって、唯一の通信手段であった手紙は大きな支えになったことと想像するが、それは子供を手放した親にもあてはまるであろう。本稿により多くの疎開児童の心情の一端を知る機会になれば幸いである。

なお本稿の史料翻刻は学芸部資料係財満幸恵が担当した。

(学芸部資料係主任 萩谷茂行)

〈注〉

(1) 浜館菊雄『学童集団疎開の記録 浮雲教室』黒潮社、昭和三十一年

(2) 前掲書四四頁。なお、検閲を行った部分のみを引用するのは誤解を招くおそれがあるので、なぜ実施したのかに関連する部分を引用する。

私達は疎開以来次の二項を規定し、父兄の諒解を得て実行して来たのは、この精神的動揺に対処するためであったのである。

一、通信は総て学寮長の検閲を受けて投函すること

二、疎開後二ヶ月間絶対面会禁止

であった。通信の検閲は、子供が郷愁に堪えかねて自分の精神状態を誇大して報じたり、学寮生活を無理にゆがめて、家庭に不安を与えたりすることを防ぐためであった。子供達は日常生活にも食生活にも、不満があつて、家庭に憧れるのは当然である。満足なものなど、一つとして無いのであるから、これに不平不満をもつて、動揺したら、集団疎開生活は成立しない。この点は父兄側の理解が極めて必要であつたのである。特に精神的に弱い三年生、四年生の子供達にとつては、全く堪えきれない苦しみの毎日であることは理解出来るが、それかと言つて、この生活の根本精神を乱し、建設途上にある、国家の大事業を崩壊に導くようなことはしてはならないのである。私達はある点については目をつぶり、其の改善に努力を傾けるより他はなかつたのであつた。

(3) 国家総動員法に基づく「国民徴用令」(昭和十四年)により、国民を生産、修理その他の総動員業務または政府の作業または管理工場もしくは指定工場での労働に従事させること。

(4) 前掲書七二頁。

(5) 前掲書五一頁。

(6) 前掲書八三頁。

(7) 文部科学省「平成十八年度学校保健統計調査」中「一年齢別都市階級別設置者別身長・体重・座高の平均値及び標準偏差」によれば、男子九歳の全国平均は平均三〇・九kgである。

(8) 前掲書二四二頁。多くの手記・体験談で「玉音放送」を聞いた様子が描写されているが、後にアナウンサーが行つた解説の放送に言及しているものは少ない。

学童集団疎開児童の往復書簡——石川靖児氏手紙

	資料名	年月日	宛先	備考	資料番号
1	はがき	昭和19年8月14日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)、節子(母親)		K11 11
2	はがき	昭和19年8月15日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 12
3	封書	(昭和19年)八月十六日	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 57
4	はがき	昭和19年8月18日(消印)	石川靖児(本人)→石川晴子(姉)		K11 13
5	はがき	昭和19年8月19日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)、節子(母親)		K11 14
6	はがき	昭和19年8月20日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 30
7	はがき	昭和19年8月20日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 15
8	はがき	昭和19年8月22日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)		K11 16
9	はがき	昭和19年8月23日(消印)	石川晴子(姉)→石川靖児(本人)		K11 31
10	はがき	昭和19年8月27日(消印)	石川靖児(本人)→石川晴子(姉)		K11 17
11	はがき	昭和19年8月30日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 18
12	封書	(昭和19年)九月二日	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	3枚、封筒付	K11 58
13	はがき	昭和19年9月13日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 32
14	はがき	昭和19年9月14日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 19
15	はがき	昭和19年9月18日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 33
16	はがき	昭和19年9月18日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 20
17	はがき	昭和19年9月27日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 34
18	はがき	昭和19年9月30日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 22
19	封書	(昭和19年)十月三日	母より→靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 59
20	封書	昭和19年10月9日(消印)	石川正雄(父親)→石川靖児(本人)	3枚、封筒付	K11 55
21	はがき	昭和19年10月15日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)、晴子(姉)		K11 23
22	はがき	昭和19年10月15日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)		K11 29
23	はがき	昭和19年10月17日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 35
24	封書	(昭和19年)十一月二日	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	3枚、封筒付	K11 71
25	はがき	昭和19年11月9日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 24
26	はがき	昭和19年11月12日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 37
27	封書	(昭和19年)11月12日～28日の間	母より→靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 67
28	封書	(昭和19年)十一月二十八日	母より→靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 54
29	はがき	昭和19年12月6日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 36
30	はがき	昭和19年12月14日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 25
31	はがき	昭和19年12月18日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 38
32	封書	昭和19年12月19日(消印)	石川正雄(父親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 56
33	封書	昭和19年12月31日(消印)	靖児(本人)→節子(母親)	1枚、封筒付	K11 60
34	封書	昭和20年1月4日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	3枚、封筒付	K11 61
35	封書	昭和20年1月21日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 62
36	封書	(昭和20年)2月5日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 63
37	封書	(昭和20年)三月二日	石川節子(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 64
38	封書	(昭和20年)三月廿日	母より→靖児(本人)	1枚	K11 69
39	封書	(昭和20年)四月三日	石川靖児(本人)→石川節子(母親)、晴子(姉)	2枚、封筒付	K11 70
40	はがき	昭和20年4月11日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 39
41	はがき	昭和20年4月26日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 26
42	封書	(昭和20年)5月1日(消印)	石川節(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 65
43	はがき	昭和20年5月28日(消印)	石川節子(母親)→石川靖児(本人)		K11 40
44	封書	昭和20年6月16日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)	2枚、封筒付	K11 74
45	はがき	(昭和20年)7月25日(消印)	石川節(母親)→石川靖児(本人)		K11 41
46	はがき	(昭和20年)8月4日(消印)	石川靖児(本人)→石川晴子(姉)		K11 28
47	封書	(昭和20年)八月廿六日	母より→靖児(本人)	3枚	K11 68
48	封書	昭和20年9月4日(消印)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)	2枚、封筒付	K11 73
49	はがき	(昭和20年)九月十二日	石川せつ(母親)→石川靖児(本人)		K11 42
50	はがき	(昭和20年)九月十五日	石川せつ(母親)→石川靖児(本人)		K11 43
51	はがき	(昭和20年)九月二十二日	石川靖児(本人)→石川節子(母親)		K11 21
52	封書	(昭和20年)九月廿五日	石川せつ(母親)→石川靖児(本人)	2枚、封筒付	K11 66
53	はがき	昭和20年10月17日(消印)	石川靖児(本人)→石川正雄(父親)、節子(母親)		K11 27
54	封書	(昭和20年)	石川靖児(本人)→石川節子(母親)	4枚、封筒付	K11 72

凡例

一、本稿は、東京都世田谷区代沢国民学校の学童であった石川靖児氏とその両親・兄弟との間で交わされた書簡を翻刻したものである。掲載史料はすべて石川氏から寄贈され、昭和館が所蔵するものである。史料の一覧を巻末に付した。貴重な史料を寄贈していただいた石川氏に、この場を借りて御礼申し上げたい。

二、史料は年月日順に配列した。ただし差出年月日が不明なものは消印の日付によって配列した。年代不詳なものは、内容から推察して適宜配列した。

三、消印、差出年月日は昭和年月日に統一し、史料の前に掲示した。

四、使用漢字は常用漢字等に統一し、仮名づかいは原文のままとした。ただし、氏名などの固有名詞は原文のままとした。

五、改行は／で表した。

六、誤字は明らかな間違いのみを訂正し(カ)と傍注し、正誤不明なものは(ママ)と傍注した。判読不明なものは□で表した。

1 はがき (K11-0011)

昭和十九年八月十四日(消印)

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

石川正雄

／同節子様

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉鳶の湯内五十五班／

石川靖児／

元気ですか無事였습니다。温泉には四回／もはいつてつかれてしまひました。後か／ら送つたお米がなくなつてしまひました。／宿舎もちひさいといつてもとても大きいところ／です。僕達の室は二階になりました。とつても大きいところで僕／ふとんが一番大きいのでびつくりして／まいりましたそばに松本行の電車が／あるのでとてもべん／ですこんど山に／ぼるのでまただします。ではのりちゃんに／よろしくいつてくださいではお元気で／ さやうなら／

2 封書 (K11-0057)

昭和十九年八月十六日

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉鳶の湯内五十五班／

(代沢国民学校)

／石川靖児殿

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

八月十六日夜／

石川 節子／

おはがき、ありがたう。元気で何よりです。／小包一つしか届きませんか。九日に二つ出しましたので／が一緒に届かないのかも知れませんが。書留で出しましたから／きつとつくと思ひますが長くかゝるそうです。／靖児ちゃんの葉書に『後からのお米がなくならしました』とありま／したが届かないと言ふ事ですか。／それから十四日にも小包一つ出しました。これは画用／紙です。きのふも小包出しましたよ之でお米の小包／もいれて四ツ送りましたから届いたらその度／に葉書でついた事を知らせて下さい。たゞ早くに／は、つかないかも知れません。／小包の紙とひもは大切にしまっておきなさいね／自分の着類はきちんと整理しておくのですよ。／半ズボン二つ小包の中に入れてましたから遊ぶ時は丈夫／なのをはきなさい。／靖児の体にはあまりお風呂に入り過ぎると体によくありませんから／気をつけて下さい。／先生や寮母様のおつしやる事をよく守つてお入りなさい。／東京は昼はとても暑いですが。浅間の方は涼しいでせう／風邪を引かない様に気をつけて下さい。／こちらは皆元気ですから安心して下さい。／池田さんのコウチャンが毎日何べんもあそびに来てます。／心も体も強くなつて下さい。／さよなら／靖児ちゃん

母より／

お前さんの葉書に(東筑摩)とありましたがこれは／間

違ひですよ。東筑摩郡と書くのですよ／

3 はがき (K11-0012)

昭和十九年八月十五日 (消印)

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四

石川節子様／

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛ノ湯五十五班

石川靖児／

お米ができませんでしたしんばいしないでく／ださい。葛の湯にくるのは松本の駅か／ら浅間といふ駅に電車につて来ます／ではさやうなら／それからおはしがなくなつてしまつた／のでおつてく／ださい

4 はがき (K11-0013)

昭和十九年八月十八日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢／二ノ二四四

石川靖子様／

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛ノ湯五十五班／

石川靖児／

お手紙ありがたうございませす。僕も／元氣です。ふうとうをどこにいたか／わらないからしらせ／てください。今日(十八日)／に手紙がつかました。小づつみもつかました／からお父さんにもしらせて／ください。／今日松本城を見学にいきました。とて／もくらのいでかいだから、落ちさうにな／りました。お母さん

は元氣ですか。／今日しや真をうつしますから出きたら／おくりませす。ではお元氣で、さやうなら／

それからないといつていた手紙がこりから出てきましたからと／いつてく／ださい

5 はがき (K11-0014)

昭和十九年八月十九日 (消印)

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四／

石川正雄／

同節子様／

長野県東筑摩郡本郷村浅間温泉葛ノ湯五十五班／

石川靖児／

お父さんお母さんお元氣ですか。こちら／では朝ひえるからくつ下を早くおつてく／ださい。本はわたなべさんからいただいた本／をおつてく／ださい。ごはんのとき僕はどん／ぶりで三ばいたべたらみんなも三ばいたべた／のでおはちがからつぽになつてしまひました。／今日、東部五十部隊にいつて部隊長さんか／らとてもいいお話をききました。こんどから／お湯に二回はいることにしました。まだ一回／もお金をつかいませんからつかつたらしら／せませす。こんどひよつとしたらこちらのけし／きの絵葉書をおくりませす。／ではお元氣で、さやうなら。／

6 はがき (K11-0030)

昭和十九年八月二十日 (消印)

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛ノ湯五十五班／
石川靖児殿／

東京都世田ヶ谷区北沢／二ノ二四四／
八月十九日夜／

石川 節子／

二度目のお葉書有難う。小包が二つ届／いてませすね。あとの二つもぢき届くでせう。／お箸が見つかりませんか。白い手さげの中に／入れたのですが、もう一度よく調べてごらん／さい。今日お箸は買ひましたが箸箱がありません／でしたから、新宿か渋谷で探して見ませう。／今朝兄様がお休みでかへりました一週間だけです／西野君元氣でせうか。何の便もないとお母様／が心配してゐらつしやいましたから西野君に逢つた／らお母様へ便を出すやうに言つてあげなさい。／

7 はがき (K11-0015)

昭和十九年八月二十日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四四／

石川節子様／

信州浅間温泉／御旅館兼御料理／内湯つたの湯／

石川靖児／

今日、小づつみがつかました。くみが／出たらみんなよろこんでいました。／こんど本をおくる時びんせんやうと／うと切手おいてく／ださい。／ではお体をたいてつに。さやうなら／

8 はがき (K11-0016)

昭和十九年八月二十二日 (消印)

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川正雄様

信州浅間温泉／御旅館兼御料理／内湯つたの湯

八月二十二日

石川靖児

今日小づつみがきました。みんな／先生に來たのをま
ぜて五つもきた／とびつくりしていました。わたなべ
／さんからいただいた本はみんな／ながもつていつたの
で僕の読む／本がなくなつてしまひました。本はこれ
だ／けでいいですから、もうおくんないでくだ／さい。
ではお元気でさやうなら。／おはしがみつかりました。
ただどなく／なつた時につかひますからおくつ／てく
ださい

9 はがき (K11-0031)

昭和十九年八月二十三日 (消印)

長野県東筑摩郡本郷村

浅間温泉／湯内五五班

石川靖児様

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川 晴子

八月二十二日

健康第一／仲よく勉強／(父より)／

お父さん／靖児シツカリ。／

けさ葉書と／薦の湯新聞とを、とても／面白く読みま
した／今晚は木村様のお兄様方三人／と飯田さんのお
兄さん、中山統雄ちゃん／達を御飯にお呼びして上げ
／ますので忙しいです。／いつも元気でほがらかに／
くらしして下さい。／先生によろしく。／(母より)／
お母さん／元気にくら／しなさいよ。／
子供らしく／元気に頑張れ／(兄より)／

兄ちゃん／ガンバレ

靖児ちゃん／毎日／元／氣にたのしく／暮してゐる
らし／いですね。何より／のことですね。／ます／
元氣／に、立派な／子供になつて下さいよ。／封筒
(フウトウ)／やびんせん、／切手は、送／つてあり
／ますから／そのうちに／とぐくでせう。／家のカボ
チャがず／ゑぶん大きくなりましたよ。／(姉より)／
晴子姉ちゃん／オネエちゃんハ／コンナアタマニシマ
シタ

体を大事に／元氣に頑張れ／(中山統雄／二十二日

十五時二十分)／

統ちゃん／ナンテ／カイト／ライイカ／ナア？／マタ

コンド／ユツクリカ／クネ。／

10 はがき (K11-0017)

昭和十九年八月二十七日 (消印)

東京都世田谷／北沢二ノ二四四

石川晴子様

長野県東筑摩郡本郷村浅間温泉／薦／湯五五班

石川靖児

お手紙ありがたう／ございます。こちら／だいぶ涼
しくなりまし／た。これは上高地の写／真です。こな
いだ絵葉／書をかいました。その代／金は四十八銭で
す。こな／いだ山へ行つてまよつて／しまひました。
でもとて／もおもしろくのぼりま／した。こないだか
ら／かんぶまさつをやり／ました。また時々上高／地
の絵葉書でおくり／ます。ではお元気でさやうなら

11 はがき (K11-0018)

昭和十九年八月三十日 (消印)

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川節子様

長野県東筑摩郡本郷村浅間温泉／湯五五班

石川靖児

八月二十九日夜

今日二時ごろぶち／に小づつみが、つきました。下ぢぎ
や／三角ぢやうぎがあんまり／びん／びんしてゐるの／で
びつくりしました。もうこずつみはおくんない／でく
ださい。荒井君も元氣です。こちらは／二日おきくら
いにお八つが／出ます今さうぢの／ラツパが／なりました
からこれでおはります。／ではお元気でさやうなら

靖児より

12 封書 (K11-0058)

(昭和十九年) 九月二日

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛の湯五十五班／
石川靖児殿／

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

石川 節子／

九月二日／

靖児ちゃん／お葉書有難う。荒井君からもお葉書を
いた／だきました。この間は先生から皆の写真を送
つて／いたゞきまして大変嬉しく皆で拝見いたし／ま
した。そちらで美しい自然の中に、よい空気を吸
ふて先生を始め寮母先生やお宿の皆様／たちの御親切に
よつて仕合せに暮れます事／は本当に有難いです
ね。／どうぞ、この事を感謝して強い／子供になつ
て／下さいね。靖児ちゃんはきつとなれますね。／兄
ちゃんに葉書を出さないよ。／それから中山さん
のおば様や統雄ちゃんに／お礼の葉書をださない。
／おば様のお名前はあき子とおっしゃいますから／中
山あき子様統雄様として出発の時に／色々といたゞい
た事やお見送りして下さつた／事をお礼申上げな
ければいけません。／○浅井さんのおば様（しげ子と
おっしゃいます）にも／お出しなさい。花ちゃんに
よろしくとも書くのですよ。／○松谷さんのをぢ様
にはお餞別を有難う／ございましたと書くのですよ
／○飯田さんのをばさん（ふじ子様）朔さんのをば
／さん（あや子様）木村カヲルをば様や／田中さんの

をばさん（信子）たちにも出発の時／には結構な物
をいたゞいて有難うございま／したとお礼申上げな
さいね。／構（コウとゆう字です）／一度に書けな
いでせうから少しづつ／お書きなさい。／字をはつき
りと間違はないやうに、消すときたな／くなりませ
よ。僕は毎日元気で暮らしてゐる事をお知らせして上
げなさい。／家ではお父様を始め皆元気ですから安心
／して下さい。／寒くなりますから体を大切に
して下さいね。／ 九月二日朝 母より／
靖児どの／

13 はがき (K11-0032)

昭和十九年九月十三日（消印）

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛の湯五十五班／
石川靖児様／

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

石川 節子／

九月十二日夕／

朝晩涼しくなりました。そちらは寒いでせうね／元
気のことゝ思ひます。この間母の会を代表して／お菓子
を持つて行つて下さつた叔父様方の報告／会が学校で
ありましてお話を伺つてまゐりました。／昨日は葛の
湯の子供のお母様たちが家へお／集り下さいまして大
変賑やかでした。そちらで／は皆が一つお釜のごはん
をいたゞいて兄弟のやうに親／しくして下さるのでお母
様方も親しくなつてます／荒井君のお家の飯田さんの

叔母様もお出で下さ／いました。こちらは皆元気で
ます。／かぜを引かないやうに気をつけて下さい。し
っかり勉強／して体も心も強くなるやう祈ります。さ
よなら／

14 はがき (K11-0030)

昭和十九年九月十四日（消印）

東京都世田谷区北沢二ノ二四四／
石川節子様／

信州浅間温泉／御旅館兼御料理／内湯つたの湯／

石川 靖児／

九月十四日／

お母さん、お元気ですか。／僕もますます元気で田町
国民学校へ／行つています。習字のすみがかくさんか
ら／いただいた、すみなので清明といふのと大元氣
をおくつてください。葉書は一週間に三べんし／かだ
せませんから学校（田町国民学校）へ行かな／い日に
出します。／ではお体をたいてせつに、 さや
うなら／

15 はがき (K11-0033)

昭和十九年九月十八日（消印）

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉／葛の湯五十五班／
石川靖児殿／

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

九月十八日／

石川 節子

お葉書を有難う。ますくゝ元気なそいで／何よりです。今日鳶の湯でうつした写真を／皆で見ました、土曜日も又家でお母様方のお集／りがありまして楽しいでした皆様喜んでお出／でになります。今小包を出しました。毛糸の／ズボン下とチョッキと長いズボンをはく時のズボン／下と墨とを送りました。冬物は靖児ちゃん／行く時に大てい持たせて上げたからあと少し丈／ですが之は三軒位の家で荷物をまとめて送る／事にしてありまして靖児ちゃんのは関様と荒井様と／一緒にです。今月の末か来月の始めでせうと思ひます／風を引かない様に注意して下さい。サヨナラ／

16 はがき (K110220)

昭和十九年九月十八日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四四／

石川節子様／

信洲浅間温泉鳶の湯／五十五班／

石川靖児／

九月十八日／

その後お元気ですか。／僕はますます元気です。習字のすみをおくる時にけ／しごむもおくってください。先生がおっしゃいましたけ／れど寒くなるとみみがつめたくなるから耳にか／ける袋を作ってください。こちらは時々、先生／に葉書を五枚づつくださるから葉

書はだい／ぢやうぶです。こちら学校がすぐそばにあり／ますけれどそこはほかの学校の生徒がはいるので／僕達は松本にある田町国民学校(浅間から三キ／口)に一日おきに行っています。面会は十月十三日から／ゆるされるさうですけれどなるべくくるなら／お正月に来てください。／ではお体をたいせつに。さやうなら／それから十五ゲームをおくってください(一カラ十五マデ並ベルゲーム)靖児より／

17 はがき (K110234)

昭和十九年九月二十七日 (消印)

長野県松本市外／浅間温泉鳶の湯五十五班／

石川靖児様／

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四／

石川 節子／

九月廿七日／

お葉書有難う。いつも元気で何よりです。廿四日の／日曜日は兄様の卒業式でしたのでお父様と姉様／と三人で行つてまゐりました。兄様は廿五日に所沢の／学校に入校されました。後でお便りがあるでせうから／そしたら早くお返事を出しておきなさい。廿五日に／飯田さんの政雄さんが入営なさいました。せんだつて／町会から学童疎開へお餞別だと言つて一円いたゞき／ましたので靖児ちゃんの貯金に入れておきました。／耳かけは後で送ります今スエーターを姉様／があん／ですから出来上つたらゴムも一緒に送ります。／一

から十五ゲームはありませんから何かないかと探し／ました。が売ってませんから見つかつた時送る事にしま／す。／小包届きましたか。届いたら知らせして下さい。／

18 封書 (K110223)

昭和十九年九月三十日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四四／

石川節子様／

信洲浅間温泉鳶の湯五十五班／

九月三十日／

石川靖児／

お手紙ありがとうございました。こないだ小づつ／みかどききました。僕達の部屋は下の部屋で十／五／でうです。こないだ下におりて来てごたごたしてい／たので出せませんのでごめんなさい。こないだ松本の陸軍／病院にいもんにいきました。兵隊さんがとてもよろこんで／いました。こちらに来て、とてもいいことがあります。こない／だは井筒の湯の大広間で紙芝居を見ましたし、ついこない／だ日本一ぢやうずといふさか本さんといふ小父さんが／手品をやつたりしました。お兄さんは所沢の学校に入校し／たさうですね。お兄さんはさうぢやうですか。何ですか。／では長くなりましてこれでやめます。お姉さんによろしく。／お体をたいせつに。さやうなら／

お母様へ

靖児より／

19 封書 (K11-00359)

(昭和十九年) 十月三日

石川靖児どの

母より

葉書を有難う。面会のくじ引が関さんあたり／叔父様が今晚お立ちになるので、耳にかけろ／のと、ゴムと毛糸のシヤツとお願ひいたします／から叔父様から渡されたらお礼を言ふのですよ。／兄様は操縦のつもりでしたが小さい時に肺炎／をやった其あとが少し残つてゐるからですから整／備の方にまはされました／飛行機は操縦する人ばかりでは飛びませぬ整備／する人もなければならぬのです。兄様は機上整備の方／でやはり大事なお仕事なのです。／お父様は同じ東京都内の足立区と言つて、こゝから二時間近くかゝる会社の寮の寮長さんに／なりましたのでお父様だけ一日にあつちへ／お引越なされたわけです。が時々こちらへお出でに／なる事が出来まますしお母様も御用があれば／寮まで行けるので何も不便な事はありません。／お父様から、くはしいお手紙があるでせう。／今は日本中の人達が、しつかりして、米英と戦つて／行かなければならぬ大事な／時なのです／靖児ちゃん達は、うんと体を丈夫にしてよく勉強し／て心、身、強い／／良い子になつて下さい。／先生をお父様やお母様の代りと思つて何でも／分らない事は御相談するのですよ。／今日の葉書に『こないだ』とありましたがこの間と／書くのが本当です。(このあいだ) 出来だけ習つた／かん字をお使ひなさい。風をひかない様に

ね。／十月三日

さよなら

靖児どの

母より

20 封書 (K11-00358)

昭和十九年十月九日 (消印)

長野県松本市外浅間温泉／葛の湯代沢国民学校五五班

石川靖児殿

東京都足立区東島根町二六八一／南千住製作所親和寮

昭和十九年十月七日

石川 正雄

靖児／いつもお手紙がありがたう。／毎日げんきで仲よく勉強してゐるといふので、日／本の子供はえらいと感心してゐる。そしてお前が／病氣もせずしつかりしてゐるのでよろこんでゐる。どうかこの戦争に勝ちぬくまでうんとぐわ／んばるやうに、そしてりつばな子供となるやうに／いのつてゐる。／お父さんもお前達にまげずに、この戦争に勝つ／やうに今度、大砲をこしらへてゐる会社の、／ぎしゆくしやで、工場に働く子供達の先生とやつてゐる。そして家にかへらずこちらにとまつ／て、朝は五時から一生けんめいにはたいてゐる。家へは時々かへるが、それでもとまらない。／このやうにお父さんもぐわんばつてゐるから、お前／もお父さんに負けないやうにしつかりやいなさい。／今はみんながしつかりしなければなら

い時で／す。どうか先生のいふことをきき、お友達と仲／よく勉強し、またからだをきたへ、りつばな、／たつしやな人となつて下さい。／今度はお父さんの所へも時々ハガキをよこして下／さい。／ではまたゆつくり手紙を書きます。／所書きは次の通りです。／東京都足立区東島根町二、六八一／南千住製作所親和寮／石川 正雄／十月七日
父より／靖児殿

21 はがき (K11-00359)

昭和十九年十月十五日 (消印)

東京都足立区東島根町二六八一／南千住製作所親和寮

石川正雄様

石川靖児

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛の湯／五五五班
一九、一〇、一〇

石川靖児

お父さん、お手紙ありがたうございます。／僕達は、元気で遊んだり勉強などをし／ています。こちらは寒くて、このごろでは、二十度／い上、こえたことはありません。この間の／浅間の祭で、たいまつ祭といふ日本中で一つしかな／いといふめずらしい祭がありました。それはわら／をたばにしたのに火をつけて、人がかたまつてい／るとそこになけるのです。とてもおもしろくこ／わくありました。こちらではさうゆうおもしろい／ことがありません。僕は元気でいますから

／お父さんもあんしんして大砲をこしらへてくださ
い。ではお体をたいせつに。 さやうなら

22 はがき (K11-0023)

昭和十九年十月十五日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四四

石川節子

同晴子様

松本市外浅間温泉／鳶の湯五十五班

石川靖児

一九、二〇、〇

お母さん、お姉さんお元気ですか。／僕は元気です
んだり、勉強などしたりしてい／ます。こちらは寒く
て、いつも二十度以上あが／つたことはありません。
冬物にはいて来た座／ぶとんは小さいのもう少し大
きのがあつたらおく／つてください。それから鼻尾と
みみかき、のりをおくつてください。運動ぐつがへん
になったので／白いねずみの皮運動ぐつをおくつてく
ださい。／ではお元気で。お体をたいせつに。／さや
うなら

お母さん

お姉さんへ

靖児より

23 はがき (K11-0035)

(昭和十九年) 十月十七日 (消印)

長野県本郷村浅間温泉／鳶の湯五十五班

石川靖児様

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川 節子

十月十六日夜

大分冷々してまゐりました。元気でせうか／早川様の
をばさまにリユツクサツクを持つて来て／いたゞくや
うにお願い致しましたので其時お話し／されたと思ひ
ますがお母様は矢澤様のをば様／と一緒に廿五日面会
に行く事になりました。／三銭切手は其時に持つて行
きます。／十八日に水戸から、きみ子叔母様と蓉子ち
やんが／ゐらつしやいます十日間位かも知れません。
／兄様へお便りを出しましたか。荒井君元気ですか
皆兄弟のやうに仲よく元気でやりますね。／池田さ
んのお家に女の赤ちやんが生れマサエちやんと言ひま
す／安子ちやんによく似てます

24 封書 (K11-0071)

(昭和十九年) 十一月二日

長野県本郷村浅間温泉／鳶の湯五十五班

石川靖児様

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四

石川 節子

十一月二日夜

この間は面会が出来て元気な靖児ちやんの／様子を
見て安心いたしました。／之からは寒くなるばかりです
から寒くないやうに／中に着なさいね。下着類(パン

ツやシャツ)は一週間に／一度はお洗濯していたゞ
くやうにしなさい。／八日に大柳さんと才賀さんの叔
母様が面会／に行かれますから下駄と日記帳はお願ひ
／しませうと思ひますが若しあまり荷物がおあり／の
やうでしたら小包で送る事にします。／日記帳は晴子
姉様からいたゞきました。／本は西遊記と何の本でし
たか忘れましたから知ら／せて下さい。お母様は婦人
会の復班長や／つたの湯母の会の幹事(カンジ)をしますの
色々と／忙しくしてゐます。前は河野さんと矢澤さん
／の叔母様でしたが今度はお母様と内田さんの／叔母
様が幹事になりました。／今日は第一木曜日でお父様
がお休みの日／家へお帰りになりました(昨夜から)
／きみ子叔母様と蓉子ちやんは二三日中に／水戸へ行
かれます。蓉子ちやんが居ると家／の中がとて賑や
かです。晴子姉様のことを／キカンボー／と小さい
声で言ひますので笑は／れてます。大きい声で言ふと
叔母様に叱られ／ますからね。中山さんの家へは毎日
のやうに行つてます。／そちらで買つて上げたお薬は
毎日飲んでますか。／色々心配したり気にかけたりし
ないで安心して／朗らかにしていると自然に体重もふえ
てくると／思ひます。お風呂は一日一回丈にしなさい。
／夜寝る時丈にして、四時の時は足だけ洗ひな／さい。
お炬達(コウタツ)の上にかけるきりは五十五班／のはお家から靖
児の名前をつけて出しておきま／したから春になつて
お炬達がいらぬ様になつたらお前さんのとこにし
まつておきなさい。／明日十一月三日は靖児ちやんの
お誕生日ですね／おめでたう。／中山さんからいたゞ
いた飴(アメ)のお礼のはがきを／出して下さいね。折角叔母

様がつくつて下さいま／したから。では元気でねしつかり勉強させようね。／十一月二日夜十時さようなら
／靖児どの
母より／

25 はがき (K11-0024)

昭和十九年十一月九日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二丁目二百四十四番地／

石川節子様／

長野県東筑摩郡本郷村／浅間温泉葛の湯五十五班／

十一月九日／

石川靖児／

お母さんお元気ですか。僕はますます元気／で暮しています。本は西遊記です。小さな本で／すよ。体重はやつと来た時と同じになつて、二十／三になりました。中山さんからいただいた、飴／は少しねずみにたべられて男がたべられない／のがざんねんでした。もう寒くて、アルプスの山／々に、雪が降つて、きれいです。ピオゲンは、毎日のん／でいます。いいにほいでも、にがいですよ。河野さんが／えんこそかいになつて、青森へいかれましたので二／十三人になりました。長ずぼんは、午前中だけ、はこう／と思つていますけれど一日はくことにしました。／ではお体をたいせつにお元気で。さやうなら。／ お母様へ 靖児より。／

26 はがき (K11-0037)

昭和十九年十一月十二日 (消印)

長野県本郷村浅間温泉葛の湯五十五班／
石川靖児様／

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四／

十一月十二日／

石川 節子／

今お葉書見ました。十一月三日のお前さんの／お誕生日にと折角中山様からいただいた／飴をねづみに食べられて男の子たちが／食べられなかつたそうでお母さんもとでも残／念でなりません。その位なら三日までのばさず／に早く上げればよかつたと後悔してゐます。／残りの飴を小さくして／も男の子も食べればよかつ／たと思ひました。それでは中山様にお礼の書き／やうもないでせう。／西遊記はこの間日記帳と一緒に内田さんののをば様／又お願ひしましたから受取つたでせう。元気でね／

27 封書 (K11-0067)

(昭和十九年十一月十二日～二十八日の間)

靖児どの／

母より／

今夜林さんと前野さんのをば様とが面会に／行かれますので風呂敷をお願ひいたします／から、こうりの上にかけておきなさい。／中山様からの飴が少しねづみに食べられて男の子／たちが食べられないで残念でしたので其代りに／ドーナツを作りましたから男の子たちでお／上がりなさい。／カリントは少しですが女の

子たちに上げます／をば様に分けていたゞぎますから仲よく／お上りなさい。／はさみ有難う。ゴムのりと筆と日記帳／西遊記は内田様のをば様から受取つたでせう。／ゴムのりはこの間銀座で買ひました。／松谷さんの義頭ちゃんが一昨日大阪から帰ら／れ今家に居られます。／いつかけがした足が未だすつかりよくなつて／ません。毎日こゝへ遊びに来てますよ。／では元気でね
さようなら／
母より／靖児どの／

28 封書 (K11-0054)

(昭和十九年) 十一月二十八日

靖児どの

母より

今晚加藤さんのをば様が面会に行かれますので／ちり紙と足袋をお願ひいたします。／松本の学校へ行く時は下駄かるい方をはきなさい。／ぬつた下駄は軽いでせう。／下駄は未だ家にしまつて／ありますから(お前さんのはくのが) 入る時は知らせて下さい。／靴が無い代り下駄は心配のないやうに用意してあります。／渡辺さんから古い本ですが三冊いたゞぎましたが冬休み／の、たのしみに後で上げます。／今日は母の会から皆にビスケットを上げませうと矢沢さん／や内田さんのをば様にお手伝ひしていたゞいて／ビスケットを作りました。この間のドーナツおいしかつたでせう。／東京に空襲があつてもこゝは立派な防空壕があり／ますので安全で何の心配もありません／松谷さんの義

顕さんの足は四、五日前手術しましたら／大変よくな
つてびつこをしないで歩けるやうになりました。
風を引かないやうに注意して下さいね。／

十一月二十八日午後三時 母より／靖児どの／

29 はがき (K11-0036)

昭和十九年十二月六日 (消印)

長野県松本市外浅間温泉 鳶の湯五十五班

石川靖児様

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四

石川 節子

十二月五日夜

其後も元気でせうね。こちら元気ですから／御安心
下さい。今日家にある古靴を送りました少し大き
いかも知れませんが先の方に綿を入れてありますし／足
袋か靴下をはいて、はけば恰度よいと思ひます。／今
度運動靴の配給があれば靖児ちゃんのいたゞけ／る番
と思ひますからそれまで辛抱して下さい。／ピオゲン
は八日に池戸さんのをば様が面会に行かれ／ますから
其時にお願ひいたしますから続けて飲み／なさい。竹
内さんのすみちやんとてちやんは、この間／をぢ様
に連れられて帰つてまゐりました。浅間にゐた／方が
いゝのと思はれます。この隣組ではお前さん一人／
丈になりましたが最後までがんばつて下さいね／風邪
を引かないやうに注意して下さい

30 はがき (K11-0025)

昭和十九年十二月十四日 (消印)

東京都世田谷区／北沢二丁目二四四番地

石川節子様

松本市外浅間温泉／鳶の湯五十五班

石川靖児

十二月十四日

お母さんお元気ですか。／僕達も元気でいますから、
御安心くだ／さい。小包は十日に無事につききました。
／十三日の朝、起きてみたら、雪がつも／つていまし
た。こちら、だいぶあぶな／くなつて、毎晩、けい
かいけいぼうが出てい／て、十三日の午後、空しゆう
になりました。／空しゆうといつても十分くらいで、
かいじ／よになりました。そちらも空しゆうで／急が
しいでせう。ではお体をたいせつに。／お姉さんによ
ろしく。さやうなら／お母さんへ
靖児より

31 はがき (K11-0038)

(昭和十九年) 十二月十八日

松本市外浅間温泉／鳶の湯

石川靖児殿

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四

石川 節子

十二月十八日

お葉書ありがたう、元気のやうで何より／です。十六
日にお待かねの本を送りました／ピオゲンも送りまし
たから続けてお飲み下さい。／松谷義顕君の足がよく
なりましたので近い／中に浅間へ集団疎開されます今
手続／をしますのでそれさへすませば行かれます
靖児ちゃんと同じ宿がよいと言はれますので／校長先
生と濱館先生にお願ひいたしました／たのでそちらへ行
かれたら仲よく遊んで／上げなさい。本は皆にもお見
せしなさい。／誰とでも、いつも仲よくするのですよ

32 封書 (K11-0056)

昭和十九年十二月十九日 (消印)

長野県松本市外浅間温泉／鳶の湯代沢国民学校五五班

石川靖児殿

東京都足立区東島根町二六八一／南千住製作所親和寮

石川 正雄

昭和十九年十二月十九日

父より／靖児殿／毎日元気で勉強してゐるとのこと、
お母様へのハガキで知つてよろこ／んでゐる。／そち
らもずるぶん寒くなつたことだらう。東京は寒いと
いつてもまだ雪はない。お父様は毎日いそがしく日
を送つてゐるので、さつぱり手紙も書かず、時たまお

母様のところへ行く位で、いつもお前や／兄ちゃんのことを考へてゐる。そしてお前達がさびしからず／りつぱに勉強してゐるのをたいへんうれしく思つてゐる。／東京は時々空しゆうがあるが、お前も知つてゐるとほりお母さん／達のところにはりつぱなぼう空ごうがあり、またお父様のゐる／ところは田舎^{いなか}の方なので、上空を敵機はとぶが、わりあひ安全／なので、空しゆうの時にもつかぶとをかぶつておもてに出てゐる位／すこしも心配はない。／そんなわけだからこちららのことは少しも心配せず勉強して立ばな人／になるやうにおねがひする。そして一日も早くに／いアメリカ、イギ／リスをやつつけて日本が世界で一ばんうつくしいえらい国になるや／うにがんばらう。それにはどんなことにもしんぼうして一生けんめい／勉強し、またからだを丈夫にたつしやにしてお国の役に立つやう／な人になることが大事です。／お友達とは仲よく先生のいふことはよくきき、元氣でやるやう／に。／ではまた書きます。／

33 封書 (K11-0060)

昭和十九年十二月三十一日 (消印)

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四番地／

石川節子様／

松本市外浅間温泉／葛の湯五十五班／

十二月三十一日／

石川靖児／

お母さんお元氣ですか。／僕は元氣で暮してゐますから、御安心ください。／二十二日に小づつみがつきましたけれど急がしくて書けま／せんでしたからごめんさい。こんどからあきら小父さん／に習字をならふことになりましたけれど半紙が少しにな／りましたから、送つてください。通信表が図画が良上になつて理科と工作が優になつて一つ優がふえました。葛の湯新聞の第四号を送ります。／お母さんも元氣でお体を大切に。 さやうなら／お母さんへ／ 十二月三十一日 靖児より／

34 封書 (K11-0061)

昭和二十年一月四日 (消印)

長野県松本市外浅間温泉／葛の湯／

石川靖児様／

東京都世田ヶ谷区北沢二ノ二四四／

石川 節子／

一月三日／

新年おめでたう。お手紙有難う。元氣で何よりです。／靖児ちゃんは今度十二になりましたね。今年のお正月は／先生やお友達と賑^{にぎ}やかにむかへてお餅もおいしくいたゞいたでせう。／成績表を見ました優が一つふへたのはよかつたですが中学／に入るには四年生からの成績表が関係するのですから油断せずに／しつかり勉強しなさいね。算数や国語も優になるやうにもつとく／よく勉強して下さい。葛の湯新聞もありがたう。

／先生は大勢の子供たちをお世話下さるので大変な御苦勞をおかけ／するので先生のおつしやる事はお父様お母様の代りと思つて／よく守つて下さい。お友達とはいつとも仲よくするのですよ／お友達のあだ名は言はないやうにしなさい。／こちらは皆元氣ですから御安心下さい。兄さんは三十一日午前にまゐりまして午後かへられましたが一日は午後まゐりまして御馳走を食べ／てお父様とお話してゐる中に木村さんからお呼ばれのお使ひがま／りまして行かれ御馳走になつて五時半頃かへつて行かれました／木村さんには二時半ごろから晴子姉さん、中山さんのけい子さん統雄／さん達もお呼ばれて九時ごろかへりました。松谷義顕さんは／何日に浅間へ行くか未だ分りません。区役所から知らせがあれば／早く行く事になつてます。井筒へ行くことになりました。／毛糸のシャツは晴子姉さんが編んで下さいましたから風邪を／引かないやうに着なさい。半紙しばらく間に合ふでせう。／きみ子叔母様と蓉子ちゃんは一月末か二月始めに天津の／叔父様の所へ行かれます其中に東京へ出てゐらつしやるで／せう。先だつて叔父様の会社の方がお出になつてます。／こちらは毎日よいお天氣が続いてます。晴子姉さんと中山／さんのけい子さんは外で羽つきをします。／ではいつもよい子で元氣で朗らかに暮しなさいね。／昭和二十年一月二日 母より／靖児どの／

35 手紙 (K11-0062)

昭和二十年一月二十一日(消印)

松本市外浅間/温泉島の湯五十五班/
石川靖児殿/

東京都世田谷区/北沢二ノ二四四/

石川 節子/

一月廿日/

靖児ちゃん、元気ですか。そちらは随分寒いでせうね。

／松谷さんの義顯さんは十五日に下田さんと言ふ会社のお／姉さんに連れられてそちらへ行きました。井筒湯です。／その中逢ふことがあるでせう。十五日に玉の湯の三年の男の子／供さんが病気で亡くなられてお気の毒に思つてます。／どこか悪いと思ふ時は早く先生に言はなければいけませんよ／今日母の会の幹事会があつて中村先生からお話を伺ひ／ました。体重表を見ましたが靖児ちゃんは今又行つた時より／少しへりましたね。お腹でもわく／ありませんか。便がやはらかい／のはお腹の弱いためですからお腹のお薬を飲みなさいね／体重のへるのはい／ことではありませんから注意して下さい。／寒い時は毛布の腹巻をしてる方がお腹も暖くてい／でせう。／うがひはよくするやうにね。昨日お母さんはお父様のみらつしやる／寮に行つてごはんをごちそうになつてお風呂に入つてお野菜／を農園の方から頂いてかへりました。とてもい／所でした。／明日は所沢の兄様の所へ面会に行つてまゐります。／廿二日は兄様のお誕生日ですから明日行つて

お祝ひして／上げませう。靖子姉様は丸々太つてますよ。靖児ちゃんも／太るとい／のね。風邪を引かないやうに気をつけて下さい。／一月二十日 母より/
靖児ちゃんへ/

36 封書 (K11-0063)

(昭和二十年) 二月五日(消印)

松本市外浅間温泉/葛の湯/

石川靖児様/

東京都世田谷区/北沢二ノ二四四/

石川 節子/

二月五日/

先だつて内田さんの、をち様が行かれました時にシヤツと半紙／と画用紙とをお願いしましたから届いたでせう。わら半紙はもう／ありません。ずつと前に先生にみな送りましたから。／内田さんのお話ではお腹が悪かつたそうですが其後どうですか／便が固くなるまで「セイロ丸」お腹の薬を毎日一つづつ／でも飲みなさい。お腹がわるいと太れませんから注意ませう。／ご飯はよく／かんで食べなければいけません。毛糸の腹巻を／してですか。下駄はそちらで皆の分の配給があつたが、はなをが／よくないので作つて送るやうにと先生からお便りがありまして皆の／お母さん達が作られましたので二三日中に先生あてに(皆の一緒に)送りますから其つも／りで待つて下さい。靖児ちゃんのははなをの外にさじとぞうきん／も送りますか

ら、さじには名前をほつてありますからよく覚え／ておきなさい。先生あての小包の中に入れますから先生がお渡し／下さるでせう。／蓉子ちゃんの写真を送ります可愛くなつたでせう／三月頃にでも天津へ行くでせう。今盛岡ですが其中東京に／来られるでせう。四、五日前東京にも雪が降りました。／では風を引かないやうに、お腹を大事にして下さい。／

さよなら/

二月五日 母より/ 靖児どの/

37 封書 (K11-0064)

(昭和二十年) 三月二日

松本市外浅間温泉/葛の湯五十五班/

石川靖児様/

東京都世田谷区北沢二ノ二四四/

石川 節子/

三月二日/

お手紙有難う。しばらくぶりでしたね。今年は風も引かずに／よかつたですね。この間先生に松本の病院までレントゲンの／検査に連れてつていたゞいたそうです。ね靖児ちゃんがなか／か／太れないし皆が目方ふえてるのに行つた時より減るので一／度レントゲンで見つて頂けば安心だと思ひまして、いつかお母さんが／そちらへ行つた時でも松本の病院でレントゲンで見つても／りでましたら先生が御親切にして下さつたの

で有難いと思ひました／異状が無いそうで安心しましたが、体にはよく気をつけて病氣／にならない様にしてませうねそうでないと先生や皆に御心配をおかけ／しますからね。お習字も見ました。だん／上手になりま／すね。しつかりやりなさい。／今度五年になりま／すね。勉強の時は一生懸命にして／裏へ／

遊ぶ時はよく遊ぶやうにませう。五年では四年生の時よりもつと／勉強して下さい。小泉さんの恵一君は少し弱いので一ヶ月位の／予定で家にかへつて居ります。今月の十日頃集団疎開へ／行くそうです。二月の二十六日はお父様のお誕生日でしたので／恵ちやんとをばさんとお招き／まして午前中から遊びにお出で／になり晩まで居られました。恵ちやんがあらへ行く前にお／母さんも小泉さんの家へ遊びに行くつもりでゐます。／今鉛筆がこちらになか／有りませんから大切に使用して／下さい。この間方々の店を探しましたが無いでした。／二月十一日の紀元節の日から軍人さんがあいらしてますよ／吉岡二郎とおつしやいます軍医少佐で軍医学校の教官／殿です。御家族は広島に疎開されましたのです。／とてもい／をぢ様ですよ。家に軍医さんが居られる事は／心強いです。蓉子ちゃんの写真見ただせう。大きくなりました／今水戸に居られます。／先だつて蒸しパンおいしかったです。／お母さんはいつ浅間へ行けるか未だ分りません。切符が簡短に手に入りませんから。／では元氣でがんばつて下さいね

三月二日 母より／靖児どの／

さよなら／

38 封書 (K11-0069)
(昭和二十年) 三月二十日

お手紙見ました。仁丹とガーゼを先生にお願ひして／上げますが短い鉛筆をつけるさつくはありません／今はお店にも売ってませんから前に持つて行つた物は何／でも大切に使はないとありませんから其つもりでゐて下さい。／小包は今中止で出せないのですよ。こちらから行く時にセル／ロイドのとても丈夫な下じきも持つて行つたでせう。何でも氣／をつけて大事に使へば長い間使へるのです。／サツク晴子姉様が下さつたから上げます。大事にね。／もうぢき五年生です。しつかり頑張つて下さい。／三月廿日 母より／靖児どの／

39 封書 (K11-0070)
(昭和二十年) 四月三日

東京都世田ヶ谷区北沢二丁目二四四番地／
石川節子／
晴子様

長野県松本市外浅間温泉／蕨の湯五十五班／

四月三日／

石川靖児

お母さんお姉さん、お元氣ですか。／僕は元氣で暮してゐます。四月五日ごろしほ／じりの方の村のお寺へさい疎開するさうです。／せつかくすみなれた浅間とわかるのも／いやですがまた別な所でないかのお友

達／といつしよに勉強するのはなんだが面白い／やうです。僕はえんこ疎開になんて、いき／ません。通信表をもうつかひませんから／通信表を送ります。算数がまだできま／せんからもつともつとがんばります。東京で／はこのごろ空襲はありませんか。こないだ／新五年生(僕達)だけでべんたうを持つて大／正山へ行きました。山登りはとても面白い／ですよ。中山さんの、のりちゃんはえう年／学校を受けましたか。新しい三年生が来てか／ら、六年生が帰つてさびしかつた、蕨の湯が急に／にぎやかになつてしまひました。こちらは暖／たかくて、朝でも十五、六度です。このごろにな／つて、毎朝泉宮グランドへかけ足にいつていま／す。三月の中ごろから、だんだん山登りに行くやうになりました。兄さんは、ちがふ部隊に行／きましたね。お姉さんは、えいやう学校を受／けましたか。では和子ちゃんよろしくいつ／てください。ではお体を大切に。さやうなら。／四月一日 靖児より／それから僕ドンブリト、オ皿はもつてきましたね／

40 はがき (K11-0039)

(昭和二十年) 四月十一日(消印)

松本市外浅間温泉／蕨の湯／
石川靖児殿／

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四／

四月十日

石川 節子

其後も元気の事と思ひます。再疎開^{サイソウ}で忙しいことでせう。五年生になつて／勉強も一生懸命にしなければなり／ませんね。どうぞしつかり頑張つて下さい／兄様は四月一日から上等兵になりました／木村さんの義雄さんは六日に入営されました／之からお父様へのお便りは寮の方にでなく／家の方へ下さいね。こちらは皆元気で／みますから安心して下さい。／いつも元気で朗らかにね　　さよなら／

41 はがき (K11-0026)

昭和二十年四月二十六日 (消印)

東京都世田ヶ谷区／北沢二丁目二四四番地／

石川節子様／

長野県東筑摩郡／洗馬村岩垂眞正寺／二班／

石川靖児／

お母さん、その後お元気ですか。こんど／洗馬村の眞正寺といふところに来ました。／同じ村に長興寺といふお寺があつて、そ／こに、井筒にいた人と桐の湯にいた三丁目／の人がいます。村の人も新切^{シンセツ}にしてください。お寺はとても広いですよ。学校は洗／馬国民学校といふ学校で、僕は五年の中組／で男女組です。ではこれだけにおきます。／では、お体を大切に。さやうなら／おわんがなくなりましたから大急ぎで／送ってください／

42 封書 (K11-0065)

(昭和二十年) 五月二日 (消印)

長野県東筑摩郡洗馬村／岩垂眞正寺二班／

石川靖児殿／

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四／

石川 節／

四月三十日／

お葉書有難う。元気で何よりです。／今度再疎開^{サイソウ}してお寺なそうですね。之からは畑の仕事や庭／の仕事が出来ると体のためにいゝと思ひます。うんと丈夫になつて下さい。勉強もしつかりやつて下さいよ。中学校に入るには／五年生の一学期からの成績が大事ですからね。／お父様は家からお務めに行つてゐらつしやいますから寮あてゞ／なくお手紙は家あてに出して下さい。／千葉の川村純子ちゃん達は盛岡に疎開して行かれました。／中山さんのをば様と啓子^{ケイコ}さんは鹿児島に、朔さんのをば／様と和子ちゃん、ころちゃんを福岡に行かれました。朔さんのをば様は毎晩遊びにみられています。／昨日は中山さんのをば様と統雄さんがお出になりました。／兄様に時々お便りを出しなさいね。／おわんが見えませぬさうです。が今小包は送れないことになつて／ますので送れませぬ。お母さんの方から先生にお願ひして／何とかまに合せていたゞくやうにしませう。／もつと早く知らせてくれましたら一、二年生の集団疎開／の時どなたか先生にお願ひするのですが。／それから岩垂のだけが靖児のは横のせんが一本足りませぬ／から注意する

やうにね。(垂) こう書くのですよ／では体を大事にして下さい／先生のおつしやる事をよく守つてね。／

さよなら／ 四月三十日 靖児どの 母より／

43 はがき (K11-0066)

(昭和二十年) 五月二十八日 (消印)

長野県東筑摩郡洗馬村／岩垂眞正寺／

石川靖児殿／

東京都世田ヶ谷区／北沢二ノ二四四／

石川 節子／

五月廿七日／

元気で暮らしてる事と思つてます／こちらは無事ですから安心して下さい。／お小づかひのお金は二十円先生にお願ひいたしましたからこれも安心して下さい。／朔さんの小父さんは福岡へ転任^{テウニン}になつて／けさ行かれました。(お家の方へ)朔さんや中山さん／松谷さんの後へ新しい人達が引越してゐらつしやい／ました。体に注意して下さい。／

サヨナラ／

44 封書 (K11-0074)

昭和二十年六月十六日 (消印)

東京都世田ヶ谷区／北沢二丁目二四四番地／

石川正雄様／

皆様／

長野県東筑摩郡洗馬村岩垂眞正寺／二班

石川靖児／

お父さんを始め皆様、御元気ですか。僕は元気／で居ますから御安心ください。今井村の部隊／（航空隊）に兄さんと同じ学校（東京陸軍少年飛行／兵学校）で同じ五中隊で伊藤隊にゐた兄さんと／同き生の兵隊さんの上等兵がゐました。こん／どゲートル・わらざウリ・びんせんを早く面会の／人に持つて来てください。それから下たの、は／な尾（前ばなをぢやないの）を送つてください。今は、十三日から二十／日まで八日間田植休みです。この袋の中にあ／る布みたいのは昔のれん習機今の特功機（カカ）の翼／の上にはつてあるのです。ハーモニカの音が／くるつてしまつたのももしあつたら面会の人／に持たせてください。けれどトンポバンドか／ヤマハバンドのシーちやう（八ちやう）を送つて／ください。それぢやなくちやだめです。ではお／体を大切に。さやうなら／ 六月十五日 靖児よ／り／皆様へ／

45 はがき (K11-0041)

（昭和二十年七月）二十五日（消印）

長野県東筑摩郡洗馬村岩垂／眞正寺学寮／
石川靖児殿／

盛岡市新山小路／五九／川村様方／

七月廿四日／

石川 節／

其後お変わりありませんか／先だつて先生から靖児の元／気な様子をお伺ひして嬉れ／しく思ひました。お母さんはお／姉さんを連れて九日の夜盛岡／へまゐりまして今川村純子ちゃん／の家に泊つて居ります。お母さん／はもうぢぎ東京へかへります。／矢沢君のお父様がお亡くなりになり大変お気の毒に思つてます／盛岡は毎日のやうに雨ふりで寒い／でしたが今日はやつとよい天気になりました。／山や水はとても綺麗です。／では体に注意して強くなつて／下さい／

46 はがき (K11-0028)

（昭和二十年八月）四日（消印）

岩手県岩手郡御所村繫／野比海軍病院繋分院／
石川靖子様／

長野県東筑摩郡／洗馬村岩垂眞正寺／二班／

石川靖児／

お姉さんお元気ださうで何よりです／今日で一年と九日となります。この洗馬／村に三つのお寺一つは眞正寺・元町とい／ふ部落には（マコ）のお寺（長興寺）には大竹先／生・尾花先生の二人下小曾部というところ／は興龍寺・常田先生新しくはいつた岩田／先生がいらつしやいます。大竹先生に手紙を出す／には洗馬村元町長興寺です。僕達は／松本陸軍病院の兵隊さんたちに、あはば／し・けんのうしようこ・みみずなど薬にな／るものを取つてゐます。ではこのくらい／で、お体を

大切に

さやうなら／

47 封書 (K11-0083)

（昭和二十年）八月二十六日

其後お変わりありませんか。しばらく靖児ちゃんから便／がありませぬ／忙しいですか。ひまの時には手紙を書いて下さい。／矢澤君と荒井君がゐなくなつて淋しくなつたでせう。／お母さんは三日に盛岡からかへつてまゐりましたが家へ、かへる／早々熱を出して五日間位寝ましたが今は元気です／安心して下さい。靖子姉様は盛岡から汽車で三十分乗つて／それから一里離れた所に繫温泉（ツツキ）がありまして、そこに海軍／病院の分院があります。そこに理事生（リシセイ）として八月一日からお務め／をして居ります。繫温泉に居られるお母さんの知つてる方が／お世話をして下さいました。寮に居りますが寮のぢぎ近くに／萱場（ツツキ）様と言つて知つてる方が居られますので靖子姉様は自分の／家のやうにお務めのすんだ後遊び行つてるそうです。／東京に居るよりは靖子姉様のためによいと思つてます。／軍隊は停戦（テイセン）で解除（カイゴ）になつてなくなるわけですが靖子姉様／のある所は病院ですから早くにはなくならないと思ひます。／一昨日（廿四日）午後三時半頃兄様がかへつてまゐりましたが早く本籍（ホンセキ）／地へ（函館）行かなければならないとの事で五時半頃家を出かけて／八時の汽車で函館の伯母様の家へ行きましたがしばらく函館／に居る丈で後東京の家へ戻つてこられます。一昨日は兄様が／ゐらしてから夕飯の仕度やおべん当の仕度

でもとても忙しいでした／時間があまりありませんでしたのでゆつくり落着いてお話す／ひまもありませんでした。／隣組でも入隊した人達がだんだんかへつて来るでせう。／中山さんの後に小澤さんと言ふ方が引越してこられました／四年生と三年生の男の子が居られ松谷さんの後には藤村さんが引越して二年生の男の子が居られますが皆罹災者で学校にも行かずに家にゐますから唯毎日遊んでばかりゐます。／いまに代沢の生徒たちが東京に戻れば代沢の学校に入るでせう。／代沢の学校は焼けないで仕合せでしたが中には沢山焼けたところもあると思ひます。いつ東京に戻れるか分りませんがそれまでは／しつかりやつて下さいね。通信簿はどうでしたか／盛岡では川村の優子ちゃんも光明ちゃんも全優でした。／この手紙を受取つたら手紙を下さい／では元気でね体に気をつけてね。／八月廿六日午後 母より／靖児どの／十銭切手売つてませんで七銭しかありませんので／七銭二枚はります／

48 封書 (K11-0073)

昭和二十年九月四日 (消印)

東京都世田谷区北沢／二ノ二四四

石川節子様

長野県東筑摩郡洗馬村岩垂眞正寺／二班

石川靖児

お母さん便りを出さないでごめんなさい。／僕は元氣

でゐますから御安心ください。も優／子ちゃん達は通信表をもらつたさうですね。／洗馬の学校はまだ通信表をくれません。そのうちにくれるでせう。そうしたらしらせてあげます。松谷さんの義つちやんは長興寺で／ても元氣です。学校で国語、算数、国史の考查を／しました。とてもやさしいので大分できました。四日から十一日までお休みで、すんでから／は理科と地理の考查をやるさうです。理科も／地理もやさしいやうですからしつかりがんばります。お姉さんからも手紙が来たからお母さん／んの手紙といつしよに出します。僕達のお世／話になつてゐるお寺さんはわからないからカタカナでかきますタチバナといひま／す。おししやうさんは英豊といひます。ハー／モニカも大分上手になりました。もう疎開し／てから一年と一ヶ月になります。松谷さんの家／や中山さんの家によその人が来て松谷さんの／人達はどうしましたか。お母も病気をしない／様に さやうなら

49 はがき (K11-0042)

(昭和二十年) 九月十二日

長野県東筑摩郡洗馬村／岩垂眞正寺二班

石川靖児殿

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四

石川 せつ

九月十二日

朝晩涼しくなりました昨日まで毎日／雨ばかり／降

りつづいてましたが今日は秋晴れのよい天気になりました。／お前さん達のかへるのも間近い事と思ひます。荷造りで／ふとんを包む時は、靖児ちゃんが行く時にふとんを包んだ／風呂しきはお母さんが面会に行つた時に持つてかへりました／から、おこたつにかけた大きなきれがあつたでせう (五十五／班石川と書いてあります) ふとんと同じ位に大きいです／其きれにふとんを包んでふとん袋に入れて頂くやうに／して下さい。(お母さんから先生にもお願しておきますが)／ではかへる其日まで元氣で風邪にかゝらない／やうに注意して下さい。長い間先生や村の方々／に御世話になつた事は一生忘れられないでせう

50 はがき (K11-0043)

(昭和二十年) 九月十五日 (消印)

長野県東筑摩郡洗馬村岩垂眞正寺二班

石川靖児殿

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川 せつ

九月十五日

先だつてはお手紙有難う。元氣で何よりです／靖子姉様は岩手県の繋から東京勤務になりまして／公用として東京にかへりまして家から目黒の本院にお務め／してましたがこの間から本院の病院に泊つて時々家へまゐります／姉様に出した葉書は繋の方から回送になつて家に届き／ましたから姉様が家へゐらした時渡します。／姉様も元氣です。兄様は未だ函館からかへりま

せんが其中／東京へ戻るでせう。だんぐ／お家も賑やかになるわけです／松谷さんの家の人たちは皆大阪に行つて其後に藤村／さんと云ふ方々が居られます。今年いっぱい隣組／の組長ですのお母様はなか／忙しいですが元気／ですから安心して下さい。さやなら

51 はがき (K11-0021)

(昭和二十年) 九月二十二日

東京都世田谷区／北沢二ノ二四四

石川節子様

長野県東筑摩郡／洗馬村岩垂眞正寺／二班

石川靖児

九月二十二日

お母さん、お元気ですか。僕は十六日の晩／学校で長野県から集団疎開の学どうのために／えいぐわをやつてくれました。そのために十七・十八・十九日の三日間の間・風を引いてねてしまひました。／けれども元気で。二十一日に山の方へたい／ひにする草を刈りにいきました。岩垂のお祭／は二十八日ださうです。藤村さんといふ家に／おもしろい本がありさうですか。東京へ帰つ／たらうんと見てやるんだがな。家にも本をう／んと買つておいてくださいよ。だんだんひえて／来ましたからお母さんも無理をしないやうにし／てください。／では、お体をくれくれに大切にしてください／元気な元気なお母さんへ さよなら

52 封書 (K11-0066)

(昭和二十年) 九月二十五日

長野県東筑摩郡洗馬村岩垂／眞正寺二班

石川靖児どの

東京都世田谷区北沢／二ノ二四四

石川 せつ

九月廿五日

先だつてはお手紙有難う。今日は葉書を見ました。風を引いたそう／すね。でも元気になつたそう／で安心しました。東京は朝晩涼しくなりまし／たからそちらは少し寒い位でせうね。集団疎開児童も今年の中には／お家へかへれるそう／ですから皆で楽しみに待つてゐるでせうね／兄さんは廿四日夜函館から、するめや干魚わかめ等のお土産をい／たゞいてかへつてまゐりましたので靖児かかへればお家では皆揃ふ／のです。するめ干魚はお前さんがかへるまで取つておきますよ好き／でしたからね。晴子姉さんは三日間のお休みで昨日からお家へ来てます／今お裁縫してます。お父様も兄さんも皆元気です。／こちらのお祭りは十九日でした／藤村さんの人達は空襲で焼けた人達で学校の本さへ焼いたので／面白本などありませんし本やにも本はありませんよ／ですから買ふ事が出来ないので。靖児は焼けない丈に仕合せなですよ。／松谷さんでは大阪へ引越して行かれました。住所は／兵庫東川辺郡西谷村玉瀬松谷眞様でいゝのです。／こ

の隣組も大分変りました。古い人達では浅井さん、池田さん、／五島さん木村さん竹内さん位でせう。あと九軒の人達は知らない人達です。／では東京にかへる日まで元気でやつて下さいね。さやなら

母より／靖児どの

53 はがき (K11-0027)

昭和二十年十月十七日 (消印)

東京都世田谷区／北沢二丁目二四四番地

石川正雄

節子様

長野県東筑摩郡洗馬村／岩垂眞正寺二班

石川靖児

九月二十二日

お父さんお母さんお元気ですか。僕は元気で居／ますから、御安心ください。姉さんの所がわかつてゐた／らおしへてください。僕は、今度十一月一日に帰る／事になりました。十四日から二十一日まで稲刈り休みで／学校へ行きません。この間、雨が毎日、降つてゐたので、さつまいもがくさつてしまふので、早くほるさうです。／このごろ、朝晩はとも寒くなりました。昼は、いつも日／なたぼっこをしてゐます。このごろ、きのこ取りに林へ行くのでだいぶおぼへました。お寺の人など山へ行つ／て、二十糶くらひの松だけを取つて来たりして／ゐます。では、だんだん寒くなりますから、お体／を大切に。姉さんや兄さんによ

ろしく。

さやうなら／

54 はがき (K11-0072)

(昭和二十年四月)

東京都世田谷区北沢二ノ二四四

石川節子様

長野県東筑摩郡／洗馬村岩垂眞正寺内／

石川靖児より／

お母さん、お元気ですか。僕は元気で暮し／てゐます。眞正寺の人はみんな元気／でゐます。学校では庭はあ
る／所だけ／のこしてみんな畠にしてしまひました。
／学校は、土曜日は四時間であとはみんな六時／間で
す。帰る時は三時すぎです。学校／はお寺から一キロ
半ばかりで長興寺は一／里くらひあります。僕はこ
ちらへくる時／は広丘駅でおり郷福寺の前を通つて／
来ました。それから眞正寺にまたまた。新しく／歌が
出来ました。ちがふ紙にうつして送り／ます。寮母先
生も大熊先生といふ先生／は同ぢ洗馬村でだいぶちか
くにあります。丸山先生はさう賀村です。岩垂の
お祭は、九月末ださうです。とてもにぎや／かださう
です。お父さん、お姉さんはお／元気ですね。びんせ
んも少しになりました／だから、もし小づつみが送れる
やうになつた／らおわんといつしよにお送つてくださ
い。／みんな元気で学校から帰ると、すぐ外／へ出て
遊んでゐます。こつちに來たら、浅／間にいた時より

太つて來ました。お金も四円／しかありませんから送
つてください。松谷／さんの義つちやんは、元気で学
校に來て／ゐます。ではこれだけにしてつぎの頁には、
／歌を書いておきます。／

眞正寺の歌／

一、みんな明かるい私も僕も。／森の小鳥がちろちろ
鳴いて、／朝だよ起きなと窓からのぞく、／洗馬の眞
正寺は明かるい学舎、／

二、みんなうれし私僕も。／歌にあけくれ楽しい
つどい、／村の小供といつしよになつて、／洗馬の眞
正寺はうれし学舎。／

三、みんな元気だ私も僕も。／強く正しくのびなぎや
ならぬ／とう様かあ様これこの通り、／洗馬の眞正寺
に來てみてごらん。／（をはり）／

ではこれでやめておきます。ではお父さん、お／母さ
ん、姉さん、お元気で。さやうなら／皆様へ／靖児よ
り／